

岐阜米穀(株) メールマガジン

今回のテーマは「スマート農業でエシカル消費を拡大しよう」

最新の情報通信技術を導入したスマート農業が普及してきた。作業の省力化などの効果が認知されてきた。この技術には、地球環境保全に役立つ面もある。

エシカル（倫理的）消費が定着しつつある消費者へのアピールをしていく、チャンスとしたいですね。

政府がまとめた 2021 年度の農業白書は、スマート農業に対する農業現場からの需要が「高いことがうかがわれます」としている。特に農業者が期待しているのが省力化であり、次いで多かったのが軽労化だ。どちらも労力不足への対策。裏を返せば、農村の労力不足を最新技術で埋め合わせようという姿勢が農業のスマート化を進めているのです。

しかし、スマート農業技術を労力対策だけにとどめているだけではダメで他にもできることは多いのです、その一つが地球環境への負荷軽減だ。

オランダでは、牛の尿を集めるロボットを開発した。これで大気中へのアンモニアの放散が抑えられ、その分の窒素が肥料として利用できるし、垂れ流しの環境汚染も防げます。国内でも計測技術を進化させ、過剰施肥を防ぐシステムが開発されてきた。ふん尿処理や堆肥化装置も、スマート化によって、地球環境の保全に貢献できていくのです。

農水省は、昨年まとめた農業現場にデジタル技術を取り入れて変革を起こす「農業 DX 構想」で、「消費者ニーズを起点にしながら、デジタル技術を活用する」としている。スマート農業の推進に消費者の意識を重視した。

農業 DX を進めるポイントとしては、「デジタル技術効果のわかりやすい伝達」を掲げる。最新技術を利用する農業者に対し、作業の省力化や経営の効率化といった効果を分かりやすく伝達することは当然です。加えて消費者に訴えることが求められます。

ここで生かしたいのが、環境や地域に配慮した消費行動を意味する「エシカル消費」を重視し始めた消費者の意識に働きかけることだ。

消費者は価格や品質だけでなく公正かどうか、エシカルな手法で生産されたかを考慮して

購入するようになってきて欲しいです。安価でデザインが良い服でも、少数民族を過酷な条件で働かせて生産しているような商品は購入を避ける傾向にある。

温室効果ガスを大量に排出して生産された商品や、牛の生育で発生するCO₂も同様ですから牛肉の消費を減らすことも重要になります。

スマート農業を普及することは省力効果だけでなく、地球環境の保全に役立つことも広くアピールしたいものです。それによって消費者の支持も得られやすくなり、生産現場に技術がより浸透しやすくなっていきます。

みんなが地球環境の改善に着目したスマート農業の技術と運営そして食品の開発を進めるべきではありませんか。